

# わからない、だからおもしろい。

西中賢 — グラフィックデザイナー

『路上と観察をめぐる表現史 考現学の「現在」』 広島市現代美術館監修



この本は2013年に広島市現代美術館で開催された「路上と観察をめぐる表現史—考現学以後」展の公式書籍です。読み進めていくと知らない学問のことや難しい言葉がたくさん出てきます。読み終わったあとも何の本だろうと疑問に思うかもしれません。

この本に出てくる「考現学」は、関東大震災（1923年）の直後、それまで柳田國男らと民俗学の調査・研究をしていた今和次郎という人物が、東京の街や人々の風俗、つまりその時代の「いま」をスケッチやメモで記す活動から生まれた新しい学問でした。

「考古学」に対しての造語である「考現学」。まさに自分の目の前にある事物を見えるがままに書き記した時代の記録です。

その後、1980年代には路上観察という活動をとおして、アーティストやデザイナー、建築家などにより、風俗に限らずさまざまな街の姿を採集していく活動が広がりました。昇った先には何もない階段、思わずクスッと笑ってしまうような看板文字、突如現れる奇妙なオブジェなど。その多くは、無用のもの、目的がわからないもの、どうしてそこにあるのかわからないものなど、合理的とは真逆に感じるものばかりです。でもそこにはユーモアだったり、皮肉だったり、見つけた人の心を揺り動かすかのようなメッセージを発しています。

本当は皆が見ていたはずなのに、見過ごされていた風景がまだまだたくさんあるはずです。ゆっくりとした歩みで、じっと街を観察していけば、誰もがみつけることができる風景。せっかく街を歩くのだったら、スマートフォンから街に目を向けてみてはいかがでしょうか。📱